

令和8年 3月 5日
(2026年)

保護者の皆様

吹田市立東山田小学校
校長 岡田 憲幸

学校教育アンケートの集計報告

立春の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、本校の教育活動にご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

さて、「学校教育アンケート」には、多くの回答をいただき、貴重なご意見を聞かせていただくことができました。ご協力ありがとうございました。

学校アンケートを集計・分析するに当たり、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答を肯定的な意見ととらえて分析いたしました。また、より多面的に分析するために、2年間の結果を同時に掲載して経年比較しやすいようにグラフ化しました。

アンケートの集計結果については、今年度の本校の教育活動についての成果と課題を検証する資料とさせていただきます。今後とも、本校の教育活動の充実のために、保護者の皆様には、よりよき理解者として、引き続きご支援ご協力をいただきたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

なお、アンケートの集計結果については、学校ホームページにおいてもご覧いただけるようにします。

【評価全般について】

保護者アンケートの(1)「学級・学年の教育活動に関するもの」(2)「学校教育活動、学校運営に関するもの」からは、肯定的な回答が18項目中9項目で90%を越えていました。また、(3)「家庭での接し方」からは、肯定的な回答が6項目4項目で90%を越えていました。次に、児童アンケートからは、肯定的な回答が14項目中11項目で90%を越えていました。

【保護者アンケートから】

90%未満の項目については以下の9項目でした。

<学級・学年の教育活動に関するもの>

「子どもは授業がわかりやすいといっている」

89% (R6) →86% (R7)

「学級や学年では、学力の定着に役立つよう、学習形態や指導方法を工夫している」

84% (R6) →80% (R7)

「先生たちは、子どもを理解している」

89% (R6) →89% (R7)

「先生たちは、子どもの間違った行動には、適切に指導している」

89% (R6) →89% (R7)

「先生たちは、子どものことについての相談に応じている」

90% (R6) →89% (R7)

「いじめのない学級づくりに取り組んでいる」

87% (R6) →85% (R7)

「先生たちは、子どもの人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」

86% (R6) →86% (R7)

<学校教育活動・学校運営に関すること>

「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている」

85% (R6) →88% (R7)

「ipad を活用して、学習や学びを深めていく」

93% (R6) →89% (R7)

<家庭での接し方>

90%未満の項目については以下の2項目でした。

「家庭では、本の読み聞かせを行ったり、読書をするように声をかけたりしている」

(R6 未実施) →72% (R7)

「家庭では、給食の話や食育に関わる話題（栄養、食事の重要性など）

を話している」

(R6 未実施) →86% (R7)

【児童アンケートから】

90%未満の項目については以下の3項目でした。

「授業でわからないことは、先生に質問できる」

80% (R6) →83% (R7)

「学校には、相談できる先生がいる」

87% (R6) →86% (R7)

「本を読むことや、読んでもらうことが好きだ」

82% (R6)→80% (R7)

今年度も保護者の皆様も子供たちも概ね学校運営に対し肯定的にとらえていただいておりますが、肯定的なご意見が90%に満たない項目も見受けられます。来年度の学校運営においては、いただいたご意見を精査し、保護者の皆様や子供たちの思いに応えられるような教育活動を進めて参ります。また、評価が90%未満の項目については、課題として捉え、工夫・改善に向け取り組んで参ります。

＜学級・学年の教育活動に関するもの＞

「学習形態や指導方法の工夫」については、学校では、今年度も教師の授業力の向上を目指し「授業がかわれば子どもがかわる」を合言葉にして取り組みを進めてきました。その中で現行の学習指導要領の趣旨を十分理解したうえで、その実現に向けて研修を積み上げてきました。日々の授業では、児童はタブレットを活用しながら個別に学習を進めたり、また協働的に意見を出し合ったりと自ら進んで学習に取り組む姿も見られるようになってきました。今後さらに、児童の学習課題をより精査し、効果的な指導方法の改善工夫に努めます。

「いじめのない学級づくり」については、組織的として積極的ないじめの認知を進め、早期発見を重要視しながら早期解決に努めてきました。昨年度同様、「デイケン」の活用も進め、相談したいことのある児童が見過ごされることがないように今後も取り組みを進めて参ります。児童間のトラブルは、集団生活の中では必ずと言っていいほど生じます。特にいじめの加害児童は、安易な考えでの言葉や行為だったとしても、被害児童はそれによって傷つき苦しむ結果となります。学校だけでは解決しない場合もあるかと思いますので、保護者の皆様にも共にご協力いただき、今後もいじめの早期発見解決に努めてまいります。

＜学校教育活動、学校運営に関すること＞

「教育方針について」「学校と家庭との意思の疎通」については、今年度は、さくら連絡網での情報提供を積極的に進め、学校だよりやその他の連絡を添付し、メールからいつでもご覧いただけるようになりました。また、欠席連絡だけではなくその様子も学校で把握することもでき、学級休業等の判断や対応も素早く行えるようになりました。今後も活用を進めてまいります。

＜家庭での接し方＞

「本の読み聞かせを行ったり、読書をするように声をかけたりしている」については、今回の学校教育アンケートでは最も数値の低い結果となりました。児童のアンケートの「本

と読むことや、読んでもらうことが好きだ」との差も気になるところですが、読書はすべての学習の基礎となる力であるので、ご家庭でのお声かけをお願いいたします。

「給食の話や食育に関わる話題（栄養、食事の重要性など）」についても、児童一人ひとりの心身の健やかな成長のためにも、ご家庭での話題の一つに取り入れていただけると幸いです。

しかしながら、4項目で90%を超える回答をいただいております、東山田小学校区のご家庭での教育力の高さが、児童一人ひとりの成長を育てているのだと感じています。

<児童アンケート>

「授業でわからないことは先生に質問できる」については、児童が基本的な学習を身につけるために、また、児童が「わかる」を実感するためにも重要なことだと考えています。現行学習指導要領の趣旨を重視しながら授業改善を進め、一人ひとりの児童が自らの学習課題の解決に向かう支援について、今後も研修を深めていきます。

「学校には、相談できる先生がいる」については、担任だけではなく、様々な角度からのアプローチに努めています。今後さらに、児童の様子に応じて養護教諭やスクールソーシャルワーカー（SSW）やスクールカウンセラー（SC）も活用しながら、気軽に相談できる学校体制を整えていきたいと考えています。

「本を読むことや、読んでもらうことが好きだ」については、昨今、児童の生活の様子が大きく変わりタブレットやスマートフォンを見る時間が増え、読書離れが起こっているのが実情です。学校として読書活動の重要性を再認識し、読書活動支援者を活用しながら、よりよい読書活動の充実に向けての取り組みを進めていきます。

<保護者のご意見・ご感想について>

学校に対する貴重なご意見・ご感想をお寄せいただきました。肯定的なご意見を数多くいただき、大変励みになりました。また、改善すべき点も明らかになりました。この紙面では一つひとつのご意見に対し適切にお答えすることができませんが、それぞれのご意見を学校として真摯に受け止め、今後の教育活動や学校運営に生かしていきたいと考えています。

まず、いじめ事案については、児童から訴えがあると必ず双方から聞き取りをさせていただきます。事実確認も含めて行いますので、その分時間がかかってしまう場合があります。保護者の方々と連携しながら進めて参りますので、ご理解、ご協力のほどよろしく申し上げます。

次に、児童に虐待の可能性があった場合についてですが、学校だより6月号でもお知らせ

せしたことを再度お伝えします。

学校での体罰行為が禁じられているように、しつけと称した家庭内での体罰は身体的虐待として法律として禁止されています。その他にも、ネグレクトや児童の面前での暴力（DVを含む）等の心理的虐待、性的虐待についても同様です。

学校では、児童に対してそのような疑いがあった場合は、関係機関に通告をすることが義務づけられています。児童に不自然なあざがあったり、家庭での様子でそのような疑いがあったりした場合は、関係機関へ通告させていただくこととなりますので、ご承知おきください。

お子様への接し方等でお困りの場合は、学校までお知らせください。教育相談員やスクールソーシャルワーカーが相談に応じます。

学校への自動車、自転車での送り迎えについてですが、原則、児童は徒歩での通学となっています。もちろん、配慮が必要で学校が認めていたり、けがをしていて徒歩での登下校が困難であったり等の例外はありますが、正門付近の混雑を避けるためにも徒歩での登下校にご協力ください。

学校と家庭との信頼関係をより確かなものにするため、ご家庭との情報を共有しながら、子どもたちがより良い学校生活を過ごせるよう取り組みを進めてまいります。また、研修の内容もよりよいものにブラッシュアップしていき、校内の体制を充実させながら、これまで以上に人材育成に努めてまいります。

今回のアンケートにつきましては、いずれも貴重なご意見として受けとめ、今後の教育活動の参考とさせていただきます。ただ、物事のとらえ方や感じ方、価値観等には違いがあり、同じ事柄に対して様々なご意見も見られます。学校としては、「まず子どもたちにとって大切なことは何か」を大切にし、取り組みを進めてまいります。

子どもたちの健全な育成を願うという目標を、学校と家庭とが一つにするため、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。アンケートへのご協力ありがとうございました。